

科目名		一般構造 I			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の構造の種類や基本的な仕組みを学ぶ科目で後期では木構造の耐力壁について主体に学び、を耐力壁の倍率や壁量計算を座学や事例を通して学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		建築物の構造の種類や基本的な仕組みを習得する。後期は木構造の耐力壁を主体に学び、耐力壁の種類や壁量計算の方法を習得し、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための知識を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	在来工法-4 ①耐力壁 (壁量計算)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	在来工法-5 ①地震力に対する壁量計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	在来工法-6 ①風圧力に対する壁量計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	在来工法-7 耐力壁の配置とバランス			① 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	在来工法-8 ①小屋組、床組			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	在来工法-9 ①階段、接合部 (継手、仕口)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
7	枠組壁工法 ①材料と使用箇所、各部の構造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①予習	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	取組姿勢			社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学ぶ。 1	
80 %	20 %	%	%	年の後期は木造の耐力壁について仕組みを中心に解説をし、小テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とする。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として約5年実務に携わる			